

エコアクション21
環境活動レポート

(2015年度)
(2015年9月1日～2016年8月31日)



2016年10月1日発行

2016年12月22日改訂

株式会社野生動物保護管理事務所

1. 組織の概要	P.2
2. 対象範囲、環境管理実施体制表	P.3-4
3. 環境方針	P.5
4. (基準年の環境負荷と)環境目標	P.6-8
5. 環境活動計画、環境目標の実績及び環境活動計画の 取組結果とその評価並びに次年度の取組内容	P.9-10
6. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無	P.12
7. 代表者による全体評価と見直しの結果	P.12

1. 組織の概要

(1) 対象事業所名及び代表者氏名

株式会社野生動物保護管理事務所

代表取締役 濱崎 伸一郎

環境管理責任者：岡野美佐夫(総務部長)

環境管理担当者：小黒大貴(全社)

① 事業所名：本社(計画策定支援室・遺伝情報解析室・総務部)

住所：東京都町田市小山ヶ丘1-10-13

環境管理責任者：岡野美佐夫(総務部長)

調査研究部門責任者：奥村忠誠(本社事業部長)

環境管理担当者：小黒大貴

連絡先 電話：042-798-7545

FAX：042-798-7565

e-mail：okano_m@wmo.co.jp

② 事業所名：関西分室

住所：兵庫県神戸市北区藤原台南町4-10-6

環境管理責任者：岡野美佐夫(総務部長)

調査研究部門責任者：岸本真弓(関西分室長)

環境管理担当者：井ノ口直美

連絡先 電話：078-984-2520

FAX：078-984-2521

e-mail：okano_m@wmo.co.jp

(2) 事業活動の内容

1. 野生鳥獣の保護に関する基礎調査の受託業務
2. 野生鳥獣の被害防除に関する基礎調査の受託業務
3. 野生鳥獣保護事業に関するコンサルタント

(3) 事業の規模

売上高:5.73億円(2015年度)

会計年度;当該年度9月～翌年8月

	本 社	関西分室
従業員数(人)	25	20
延床面積(m ²)	198.4	318.94
売上	2.73億円	3億円

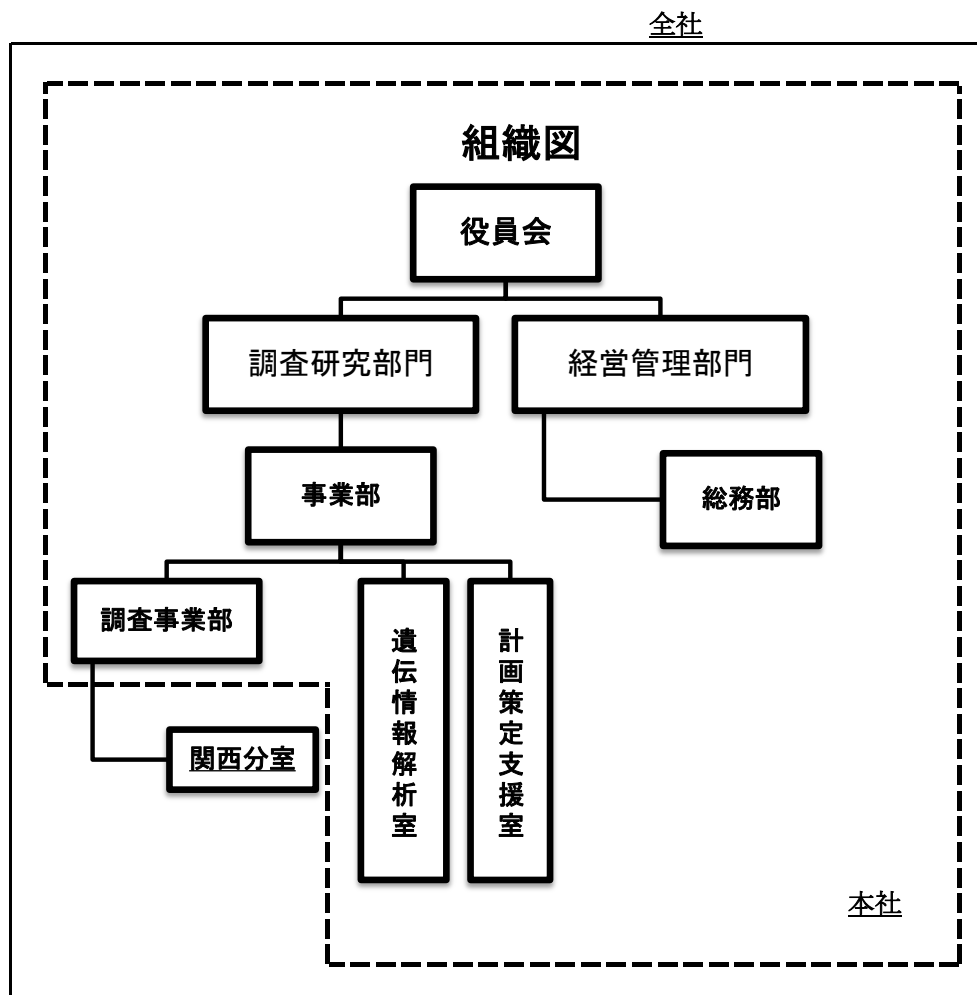
2. 対象範囲

(1) 認証・登録対象組織

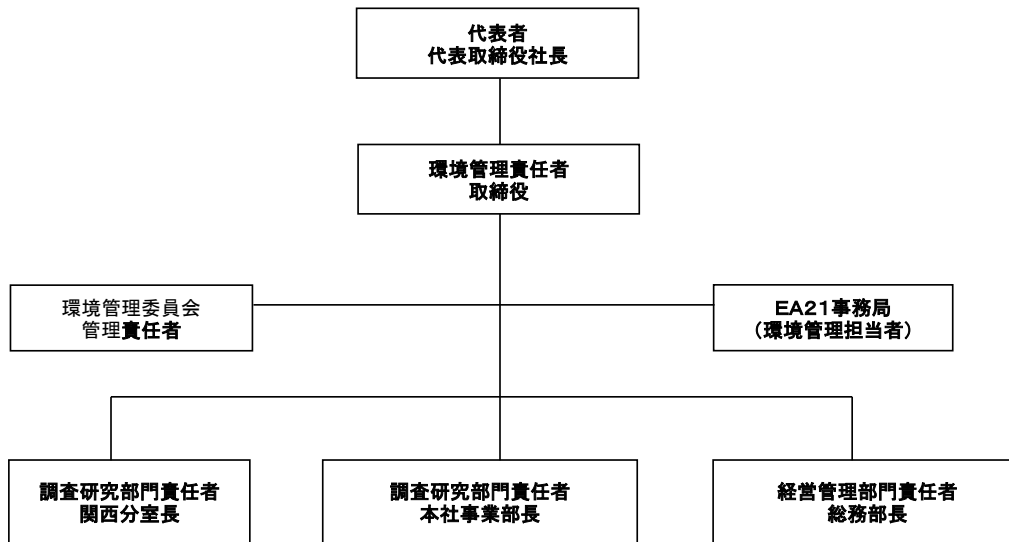
全社・全組織

(2) 認証・登録対象活動

1. 野生鳥獣の保護に関する基礎調査の受託業務
2. 野生鳥獣の被害防除に関する基礎調査の受託業務
3. 野生鳥獣保護事業に関するコンサルタント



環境管理実施体制表



役職	責任および権限
代表取締役	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境管理責任者の任命 2. 環境方針の制定 3. 環境経営システムの実施および管理に必要な資源の準備 4. 環境経営システムの定期的見直しの実施 5. 社内情報の外部公開可否決定
環境管理責任者	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境経営システムの確立、実施、維持、継続的改善 2. 社長への環境経営システムの実施状況報告 3. 諮問機関である環境管理委員会の委員長として委員会の運営 4. 推進機関であるEA21EMSの事務局の責任者として事務局運営 5. それぞれの業務・役割に応じ、必要な教育訓練を適切に計画・実施 6. 関連法規の取りまとめ表の維持管理、遵守徹底 7. 環境関連文書及び記録の作成・整理
EA21事務局	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境管理責任者の補佐
環境管理委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境活動計画の審議 2. 環境活動実績の確認・評価
部門責任者	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境経営システムの方針、実施計画を自部門で実施、維持、継続的改善 2. 環境上の緊急事態への準備及び対応

3. 環境方針

株式会社野生動物保護管理事務所の環境方針

基本理念

株式会社野生動物保護管理事務所は、生物多様性条約の理念にのっとり、野生動物の保護管理を推進するために活動しております。人口減少時代に向かう中、増大する野生動物と人の軋轢に対処するべく、社会に貢献してまいります。さらに、温暖化をはじめとする、人間活動による地球環境全体への影響は、野生生物にも少なからず影響が及んでいる現状があることから、自らの事業運営にあたっては、環境に配慮し、循環型社会の実現に貢献してまいります。

環境方針

1. 環境関連法規制を遵守します。
2. 電気・水道水・電力及び燃料使用の省エネルギーに取り組み、二酸化炭素排出量の削減を推進します。
3. 事業活動に伴う廃棄物の削減に努め、再使用、再生利用の推進に努めます。
4. 事業活動に伴う薬品の適切な使用・保管・廃棄に努めます。
5. グリーン購入を積極的に推進します。
6. 事業活動を通じて、生物多様性保全の推進に努めます。

平成27年9月1日制定

株式会社野生動物保護管理事務所

代表取締役 濱崎伸一郎

4. (基準年の環境負荷と)環境目標 ①全社

削減比率:前年度比

環境目標	基準	年度目標	中期目標		
	本社:2013年度 (2013年9月～2014 年8月)分室:2014 年度(2014年9月～ 2015年8月)	2015年度 (2015年9月～ 2016年8月)	2016年度 (2016年9月～2017 年8月)	2017年度 (2017年9月～ 2018年8月)	2018年度 (2018年9月～ 2019年8月)
		全社	全社	全社	全社
1. CO ₂ 削減	135,902kg-CO ₂	133,773kg-CO ₂	132,227kg-CO ₂	130,701kg-CO ₂	129,195kg-CO ₂
①電力使用量 削減	41,152kWh (21,402kg-CO ₂)	2%削減 39,885kWh (20,741kg-CO ₂)	2%削減 39,088kWh (20,326kg-CO ₂)	2%削減 38,306kWh (19,919kg-CO ₂)	2%削減 37,540kWh (19,521kg-CO ₂)
②車燃料使用量削減	49,306L (114,472kg-CO ₂)	1%削減 48,674L (113,005kg-CO ₂)	1%削減 48,187L (111,874kg-CO ₂)	1%削減 47,705L (110,755kg-CO ₂)	1%削減 47,228L (109,647kg-CO ₂)
2-①. 一般廃棄物 排出量削減	3,752kg	3%削減 3,599kg	3%削減 3,491kg	3%削減 3,386kg	3%削減 3,284kg
2-②. 産業廃棄物 排出量削減	2,129kg	1%削減 2,093kg	1%削減 2,072kg	1%削減 2,051kg	1%削減 2,030kg
3. 水資源投入量 削減	205m ³	2%削減 200m ³	2%削減 196m ³	2%削減 193m ³	2%削減 190m ³
4. コピー紙使用量 の削減	673kg	2%削減 650kg	2%削減 637kg	2%削減 625kg	2%削減 613kg
5. グリーン購入	105品目	3%増 109品目	3%増 112品目	3%増 116品目	3%増 120品目
6. 製品及びサービ スに関する項目	受託業務件数 147件	1%増 151件	1%増 153件	1%増 155件	1%増 157件

- ・ 本社購入電力(東京電力)の平成24年度二酸化炭素実排出係数;0.525kg-CO₂/kWh
- ・ 分室購入電力(関西電力)の平成24年度二酸化炭素実排出係数;0.514kg-CO₂/kWh
- ・ 本社LPG使用量は、少量なので維持管理項目とし、表記省略。分室LPG使用なし

(基準年の環境負荷と)環境目標 ②本社

削減比率:前年度比

環境目標	基準	年度目標	中期目標		
	本社:2013年度 (2013年9月～2014年8月)	2015年度 (2015年9月～2016年8月) 本社	2016年度 (2016年9月～2017年8月) 本社	2017年度 (2017年9月～2018年8月) 本社	2018年度 (2018年9月～2019年8月) 本社
1. CO ₂ 削減	44,538kg-CO ₂	43,418kg-CO ₂	42,869kg-CO ₂	42,329kg-CO ₂	41,796kg-CO ₂
①電力使用量削減	22,670kWh (11,902kg-CO ₂)	2%削減 21,773kWh (11,431kg-CO ₂)	2%削減 21,338kWh (11,202kg-CO ₂)	2%削減 20,911kWh (10,978kg-CO ₂)	2%削減 20,493kWh (10,759kg-CO ₂)
②車燃料使用量削減	14,045L (32,608kg-CO ₂)	1%削減 13,766L (31,960kg-CO ₂)	1%削減 13,628L (31,640kg-CO ₂)	1%削減 13,492L (31,324kg-CO ₂)	1%削減 13,357L (31,010kg-CO ₂)
2-①. 一般廃棄物排出量削減	1,413kg	3%削減 1,330kg	3%削減 1,290kg	3%削減 1,251kg	3%削減 1,213kg
2-②. 産業廃棄物排出量削減	1,530kg	1%削減 1,500kg	1%削減 1,485kg	1%削減 1,470kg	1%削減 1,455kg
3. 水資源投入量削減	75m ³	2%削減 73m ³	2%削減 72m ³	2%削減 71m ³	2%削減 70m ³
4. コピー紙使用量の削減	500kg	2%削減 480kg	2%削減 470kg	2%削減 461kg	2%削減 452kg
5. グリーン購入	24品目	3%増 26品目	3%増 27品目	3%増 28品目	3%増 29品目
6. 製品及びサービスに関する項目	受託業務件数 48件	1%増 51件	1%増 52件	1%増 53件	1%増 54件

- ・ 本社購入電力(東京電力)の平成24年度二酸化炭素実排出係数;0.525kg-CO₂/kWh
- ・ 本社LPG使用量は、少量なので維持管理項目とし、表記省略。

(基準年の環境負荷と)環境目標 ③分室

削減比率:前年度比

環境目標	基準	年度目標	中期目標		
	分室:2014年度 (2014年9月～2015 年8月)	2015年度 (2015年9月～ 2016年8月)	2016年度 (2016年9月～2017 年8月)	2017年度 (2017年9月～ 2018年8月)	2018年度 (2018年9月～ 2019年8月)
		分室	分室	分室	分室
1. CO ₂ 削減	91,364kg-CO ₂	90,355kg-CO ₂	89,358kg-CO ₂	88,372kg-CO ₂	87,399kg-CO ₂
①電力使用量 削減	18,482kWh (9,500kg-CO ₂)	2%削減 18,112kWh (9,310kg-CO ₂)	2%削減 17,750kWh (9,124kg-CO ₂)	2%削減 17,395kWh (8,941kg-CO ₂)	2%削減 17,047kWh (8,762kg-CO ₂)
②車燃料使用量削減	35,261L (81,864kg-CO ₂)	1%削減 34,908L (81,045kg-CO ₂)	1%削減 34,559L (80,234kg-CO ₂)	1%削減 34,213L (79,431kg-CO ₂)	1%削減 33,871L (78,637kg-CO ₂)
2-①. 一般廃棄物 排出量削減	2,339kg	3%削減 2,269kg	3%削減 2,201kg	3%削減 2,135kg	3%削減 2,071kg
2-②. 産業廃棄物 排出量削減	599kg	1%削減 593kg	1%削減 587kg	1%削減 581kg	1%削減 575kg
3. 水資源投入量 削減	130m ³	2%削減 127m ³	2%削減 124m ³	2%削減 122m ³	2%削減 120m ³
4. コピー紙使用量 の削減	173kg	2%削減 170kg	2%削減 167kg	2%削減 164kg	2%削減 161kg
5. グリーン購入	81品目	3%増 83品目	3%増 85品目	3%増 88品目	3%増 91品目
6. 製品及びサービス に関する項目	受託業務件数 99件	1%増 100件	1%増 101件	1%増 102件	1%増 103件

- ・ 分室購入電力(関西電力)の平成24年度二酸化炭素実排出係数;0.514kg-CO₂/kWh
- ・ 分室LPG使用なし

5. 環境活動計画、環境目標の実績、取組結果とその評価及び次年度の取組内容

環境目標とその施策	取組結果とその評価(2015年9月～2016年8月)			
	環境目標	実績	達成区分	評価及び次年度の取組内容
	全社	全社	全社	
1. CO ₂ 削減	133,773kg-CO ₂	138,080kg-CO ₂	△	・電力使用量は達成できたがガンリン使用量の増加によりCO ₂ 排出量が増加
①電力使用量削減 ・不要照明の消灯 ・エアコンの温度管理	39,885kWh	39,343kWh	○	・取組継続
②車燃料使用量削減 ・エコドライブの徹底 ・アイドリングストップの徹底	48,674L	50,664L	×	・エコドライブ推進 ・燃費記録徹底
2-①. 一般廃棄物削減 ・廃棄物分別の徹底 ・事務処理から出る紙屑の仕分け、リサイクル	3,599kg	3,136kg	○	・取組継続
2-②. 産業廃棄物削減 ・余分な廃棄の抑制	2,093kg	1,441kg	○	・取組継続
3. 水使用量削減 ・蛇口に節水表示	200m ³	275m ³	×	・職員数増による影響と判断される
4. コピー紙使用量削減 ・裏紙利用 ・ペーパーレス化	650kg	805kg	×	・受注量増による影響と判断される
5. グリーン購入拡大 ・購入実績の把握	109品目	116品目	○	・取組継続
6. 製品及びサービスに関する項目(環境配慮) ・受託件数の増加 ・広報活動の充実	受託件数 151件	受託件数 157件	○	・取組継続

○: 目標達成、×: 目標未達

- ・ 本社購入電力(東京電力)の平成24年度二酸化炭素実排出係数;0.525kg-CO₂/kWh
- ・ 分室購入電力(関西電力)の平成24年度二酸化炭素実排出係数;0.514kg-CO₂/kWh
- ・ 本社:LPG使用量は、少量なので維持管理項目とし、表記省略。分室:LPG使用なし

環境目標とその施策	取組結果とその評価(2015年9月～2016年8月)						評価及び次年度の 取組内容
	環境目標		実績		達成区分		
	本社	分室	本社	分室	本社	分室	
1. CO ₂ 削減	43,418kg- CO ₂	90,355kg- CO ₂	48,873kg- CO ₂	89,207kg- CO ₂	△	○	・分室はガソリン使用量の減少によりCO ₂ 排出量も減少した
①電力使用量削減 ・不要照明の消灯 ・エアコンの温度管理	21,773kWh	18,112kWh	19,255kWh	20,088kWh	○	×	・本社はLED照明導入による効果と考えられる
②車燃料使用量削減 ・エコドライブの徹底 ・アイドリングストップの徹底	13,776L	34,908L	16,688L	33,976L	×	○	・分室は目標達成 ・今後もエコドライブを推進する
2-①. 一般廃棄物削減 ・廃棄物分別の徹底 ・事務処理から出る紙屑の仕分け、リサイクル	1,330kg	2,269kg	871kg	2,265kg	○	○	・不要な廃棄物をなるべく排出しないように今後も取り組みを継続する
2-②. 産業廃棄物削減 ・余分な廃棄の抑制	1,500kg	593kg	1,390kg	51kg	○	○	・不要な廃棄物をなるべく排出しないように今後も取り組みを継続する
3. 水使用量削減 ・蛇口に節水表示	73m ³	127m ³	136m ³	139m ³	×	△	・節水意識の向上 ・社有車の洗車の無駄をなくす
4. コピー紙使用量削減 ・裏紙利用 ・ペーパーレス化	480kg	170kg	559kg	246kg	×	×	・電子化を推進する ・裏紙の利用を徹底する
5. グリーン購入拡大 ・購入実績の把握	26品目	83品目	27品目	89品目	○	○	・購入検討の際、グリーンマークの有無を確認する
6. 製品及びサービスに関する項目(環境配慮) ・受託件数の増加 ・広報活動の充実	受託件数 51件	受託件数 100件	受託件数 55件	受託件数 102件	○	○	・行政機関からの需要増

○:目標達成、×:目標未達

- ・ 本社購入電力(東京電力)の平成24年度二酸化炭素実排出係数;0.525kg-CO₂/kWh
- ・ 分室購入電力(関西電力)の平成24年度二酸化炭素実排出係数;0.514kg-CO₂/kWh
- ・ 本社:LPG使用量は、少量なので維持管理項目とし、表記省略。分室:LPG使用なし

◆今回から新たに対象範囲に含めた関西分室でのEA21取組◆

🌿 空調の適正化

サーキュレーターファンの運用により、夏期・冬期ともに、極力空調設備に頼らずにすむよう室内温度の均質化を図っています。



🌿 採光による省電

天井からの採光や大きな窓を設置することで省電力を図っています。



🌿 紙資源の再利用

ミスプリント紙は回収し、内部打合せ資料の印刷やメモ用紙等に再利用しています。また、使用済みの綺麗な封筒も回収し再利用しています。



段ボールや新聞は回収ボックスに持っていくことで廃棄物を減らし資源の再利用に取り組んでいます。



🌿 資源の再利用

アルミ缶・スチール缶・ペットボトルは回収ボックスに持っていくことで廃棄物を減らし資源の再利用に取り組んでいます。



関西分室 外観

6. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

適用される主な環境関連法規等は次のとおりである。

適用環境関連法規等	適用内容	遵守状況
鳥獣保護管理法	鳥獣の捕獲等の規制等	○
自然公園法	自然公園の保護及び利用の規制等	○
麻薬及び向精神薬取締法	麻薬研究者の届出、薬品の適正な管理等	○
グリーン購入法	環境負荷の少ない製品・サービス等の購入	○
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物等(廃プラ、廃油等)	△
フロン排出抑制法	廃棄の場合のフロンの適切な処置(業務エアコン、冷凍冷蔵庫)	○
家電リサイクル法	特定家庭用機器の適切な廃棄(エアコン、冷凍庫)	○

○:目標達成、×:目標未達 △:監視継続

環境関連法規等の遵守状況を確認し評価した結果、環境関連法規等への違反・訴訟は過去3年間ありません、並びに関係当局よりの違反等の指摘も過去3年間ありません。又、近隣からの苦情等はありません。

7. 代表者による全体評価と見直しの結果

(1) 全体評価

今年度からエアアクション21の取り組みに関西分室を対象事業所として含めることになりました。まだ開始してから間もないですが、徐々に職員一人一人の環境に対する意識が高まり、環境負荷低減へと繋がる活動を行うことが出来ていると感じています。特に業務の性質上、削減し難いガソリン使用量が目標を達成したことは高く評価できると考えます。公共交通機関の利用増、エコドライブの取り組みが社員達の中で意識的に行われたことがその要因として挙げられます。燃料費にも影響し、企業経営からみても重要な項目ですのでこの達成は十分な成果と判断できると思います。会社の発展に伴って総量が幾分増えることはやむ負えない点ではありますが、受注量あたりの排出量の削減比率について、できるだけ抑制するよう努めなくてはなりません。今後も日常的な省エネルギー対策を促進し、そのことが経営コストの削減につながることを職員の一人一人が実感できるような仕組み作りをしていくことを引き続き続けていくことが大事だと考えます。

(2) 見直しの結果

①電力使用量については削減目標を達成した。一方、ガソリン使用量については目標値に達しなかった。エコドライブを今後も継続していくこと、また燃料費の面を考慮してより燃費性能のよい自動車を導入していくことも検討する。

②廃棄物排出量については、一般廃棄物・産業廃棄物ともに目標を達成した。今後もこの流れを継続し、維持していく。

③水使用量の削減は、目標を達成しなかった。増加の原因は職員数の増加と考えられるが少しでも少ない使用量で効率よく作業するように心掛ける必要がある。

④コピー紙使用量の削減は、業務量が増加している面もあり、少量増加した。これまで以上に裏紙利用及び電子データ化に努めていく必要がある。

⑤ 次年度のEA21環境経営システムの変更可否判断

環境方針、環境目標、環境活動計画等のEA21環境経営システムについては、変更しない。

以上